

【講演1】

「金沢工業大学における女子学生の現状と課題」

金沢工業大学大学院 工学研究科
バイオ・化学専攻 1年 袴田研究室所属
七尾圭香氏



金沢工業大学大学院の七尾圭香です。「女子学生の現状と課題」というテーマでお話しさせていただきます。

はじめに、私が大学4年間においてしてきたことについて話させていただき、その後に金沢工業大学における女子学生の現状の説明をさせていただきます。

私は4人兄弟の末っ子として生まれました。そのせいでとは言いたくないのですが、わが家は少し貧乏であり、それは後々絡むので覚えておいてください。私は2009年に金沢工業大学から30キロ南の小松高等学校に入学し、2012年に卒業しました。当初は高校卒業後働こうと思っていたのですが、入試時はリーマンショック後だったので、それではいけないと思い、大学進学に力を入れていた高校に入学しました。そこで学問に打ち込むべきでしたが、気付いたら部活動(漕艇)にはまり、全力を注いだ3年間になりました。漕艇は、今、東京オリンピックの問題でよく話題となっているボート競技のことです。

卒業後、同年に応用バイオ学科に入学しました。高校時代は学問に対して不完全燃焼だったため、その悔しさや後悔をなくすために大学では頑張ろうと思いついて入学しました。

大学3年次の9月に、今の研究室である袴田研究室に配属し、今年の3月に大学を卒業し、4月に大学院に入学しました。

金沢工業大学に入学希望した理由ですが、部活動のボートが本当に大好きで、ボートに関わる仕事がしたいと考えていました。そう思ったときに選手としての才能はなかったため、指導する立場として関わりたいと思い、教員を目指すようになりました。

それに加えて、高校時代にはリーマンショックがあったので、就職率のいいところ、私立なら学費のかからない、補助があるところに行くべきだということもありました。あとは、化学と生物の両方を学びたいと思っていました。特に、たんぱく質にとっても興味

を持っており、その研究をしたいと思いました。

そのとき見たのが、金沢工業大学の入学案内でした。最近気付いたのですが、そのとき注目した記事に載っていたのが、所属研究室の袴田先生でした。すごい巡り合わせだなあと、今となって思います。

金沢工業大学では、国立大並みの授業料で受けられるスカラシップフェローという特別奨学生を募集しており、選ばれると学費が安いということがわかりました。そして、有名なのは就職率が99%と高いということです。また、私たちの入学年からは、中学・高校の理科の教員免許の取得が可能になったこと、サブメジャー制度という他学科の受講が可能となって、卒業認定がいただけること。これらのことが私の大学選びの条件と一致し、入学を決意しました。

入学前の目標としては、学問に対して妥協せずに頑張る、奨学生の継続は結構厳しい条件でしたが、それを絶対継続すること、根性があるので、学費の元を取るために教員免許状の取得や他学科の認定など、できることは何でもやろうと考えました。あとは、就職を希望していたので、就職を決める努力を怠らないことを決意しました。

そして、大学4年間の成果としては、以下のことになります。奨学生の継続条件であるプロジェクト活動として研究室体験では3年間継続し、卒業時のQPAは3.6を取れました。本学の卒業要件単位は124単位でしたが、それを超えて176単位を取得しました。

他に、本学では学内インターンシップ制度があったので、これも3年間継続をしました。教員免許状も無事取得でき、サブメジャー制度で応用化学科の14単位を認定取得しました。

就職に関して、現在の大学院進学は考えていませんでしたが、プロジェクト活動を通して、まだまだ学びたいという想いから大学院進学を決意し、就職活動は5社程度で止めました。

次は、私の各年次における活動について、話したいと思います。

私の入学年では、応用バイオ学科は女子学生が一番多い学科でした。101人中29人が女子で、卒業時も約3割が女子でした。現在は女子学生が4割ぐらいになっているそうです。

本学では、プロジェクトデザイン教育という、自分で問題を発見し、解決していくという授業を1年次から4年次まで、一貫して設けられます。4年次はこれが卒業研究にあたります。卒業時の研究として、オロト酸を生産する納豆菌変異株から高生産株を選抜するという研究をしました。

加えて、研究室体験プログラムは、一つの研究室だけではなく、多くの考えを学びたいと思い、三つの研究室を回ってみて、最後に行った袴田研究室が特に面白かったので正式配属を決めました。

教員免許状取得活動としては、昨年6月に教育実習に行きました。また、3年次にはKITステークホルダー交流会で発表し、企業の多くの方ともお話をさせていただき、入学案内の取材も受けさせていただきました。自分が入学を決めた入学案内に携わることができて、自分のような方が増えてくれると大変うれしいと思っています。

次は、大学院進学への決意です。就職を考えていたのに、なぜ大学院に進学したのかですが、最初はお金がないことを理由に進学を諦めていました。また、お給料が良いところへという願望もあったので、教員になるための準備や、自分が就活で優位になる活動をしてきました。しかし、その優位になれる活動の中の「研究室体験プログラム」を通して、研究がすごく面白かったことや、先生の人柄が良かったということで、まだまだ研究し続けたいという思いが芽生えました。

体験を通して、自分がすごく未熟で、教科書に載っているようなことしか知らないことを痛感しました。本学では研究できる期間は4年次の1年間だけですので短く感じ、研究者にもなってみたいという思いが出てきて、大学院に進学して、将来研究員になれるような準備をしたいと考えたからです。

今、大学院1年なので、来年就職活動になりますが、修士号で止まるのではなく、できたら企業で博士号も取れるように進路を選びたいと思っています。

現在の研究活動についてです。今は納豆菌を主体として、遺伝子組み換えによる物質をたくさんつくる研究をしています。グルタミンから始まり、私たちの体を構成するDNAの一つであるウラシルをつくる代謝経路があります。その中間物質が私の目的物質になり、ウラシルをつくる遺伝子を破壊して、大量に中間物質つくらせるという研究をしています。

ここまでの私の話でしたが、今からは金沢工業大学に関する女子学生の現状を話していきたいと思います。

まず、現状と課題の中の学内編と題しまして、学内の環境がどうなっているかです。大きな環境的な問題として、扇が丘キャンパスのほかにある院生と4年生の研究が主体となる、やつかほりサーチキャンパスがあります。そこは直線距離7キロ、距離10キロと遠いです。そのため、行き来する手段として自家用車もしくは大学から出ているシャトルバスを利用します。しかし、往復1時間以上要してしまうことや、シャトルバスの乗車希望者に対して乗れる人数や頻度が少ないので制限があります。あと、ここでは少し言いづらいですが、雨の日には結構臭いがすごいで、体調を悪くする女子学生も多いのです。

その対策として、私が提案させていただきたいのが、シャトルバスの本数を1時間に4本程度に増やし、時間的な短縮を検討していただきたいです。しかし、一番は臭い対策です。バスの中にいる時間が長いので、空気清浄機を置いていただきたいのです。あと、雨天時に臭いが強くなるので、傘に袋をかけて車内に水や泥を持ち込まなくする対策も講じていただきたいと思います。

また、施設内は新しい建物から古い建物までありますが、基本的に室内が暗く少しカビ臭いところもあります。冷房も強いところが多いです。古い建物では、女子トイレが少ないという問題もあります。明るい内装や照明を設置することや空気清浄機を設置することで、女子学生の実習や勉強に対する意欲が増すと思います。最近、パウダールームが増えてきてはいますが、トイレタリー用品が少々乏しいので、それらも増やしていただくととても良いと思います。他にも一般常識に関するマナー講習会なども、大変役立つと思います。

ここまで悪い点を言いましたが、本学の良い点としまして、施設が常にすごく清潔なことです。それは清掃員の方が授業と授業の合間にきちんと掃除してくださるからです。それもあって、汚す罪悪感が学生の中に生まれて、きれいに保つということがみんなの暗黙の共通認識になっていて、きれいに保つことができていく点がとても良いと考えます。

続いて生活編として、本学周辺的生活環境について話したいと思います。

良い点として周辺施設に飲食店やコンビニが多いことが挙げられます。スーパーも充実しており、一人暮らしをするには十分な環境です。そのため、アルバイト先も多く、便利な生活が送れると思います。

悪い点としては、今まで男子学生が多かったので、女子学生が入居可能なセキュリティのあるアパートがなかなかないのが問題です。私も一時期一人暮らしをしていたのですが、20軒ほどしかセキュリティのしっかりしたアパートがなく、既に住んでいる女子学生も多かったので入れないと言われました。また、セキュリティを良くしすぎて家賃が5～7万円と、この辺りの家賃相場としては高値になっているところもありました。それでは県外からの学生にとって厳しいのではないかなと思います。あとはショッピングセンターが遠く、自家用車が無い学生には不便という面があります。

これらを改善するために、建築学科でアパートのリノベーションを行うプロジェクトがありますが、周辺の古びたショッピングセンターなどもあるので、それらを学内プロジェクトで良くするものを立ち上げていただけると、さらに生活しやすい環境ができて、女子学生が増えてくるのではないかと思います。

私から見た女子・男子学生の特徴です。

本学の1年生から3年生まで必須の穴水研修では、男女構わず、積極的に話し合っている様子がよく見られます。

本学の女子学生の特徴として、世間よりも女子学生が少ないので世間とは違うと思うのですが、積極的にグループ活動に参加する方が多いです。そして、研究活動に関しても意欲的な学生が多く、作業が丁寧で、予定を立てて実験をするのがうまい方が多いです。また、明るくリーダーシップがある方も多く、そこが今まで皆さんが思われている小中の女子学生に比べたら、変わっているのではないかと思います。これは良い点か悪い点か分かりませんが、女子学生は大学内で貴重です。貴重なので、周りからなかなか責められないところがあります。私もそうですし、同期の研究室にいた女子も強くたくましく、誰も逆らえないような女性が誕生するという特徴があります。団体行動も苦手ではありませんが、単独行動もできる女性も多いのが本学の特徴だと思います。

それに対して、男子学生のほうは、男性が多いので団体行動が得意で協調性のある方が多いのが特徴だと思います。また、これは私の意見ですが、「女性を責められない」ということで、優しい人が多いのが本学の男子学生の特徴だと思います。

本学における女子学生の特権といわれるものは、私から考えると3点あります。まず、ライブラリーセンターの11階には、女子学生専用閲覧室があります。そこはワンフロアすべて女子学生しか入れないスペースとなっています。そこは綺麗で自習しやす

い環境であったり、女性用の雑誌が置いてあることや、パウダールームが併設されていたり、女性専用の就職関連雑誌が置いてあるので、女子学生に大変いい環境です。

また、学部の1年次のみですが、女子専用ロッカーを貸し出していただけます。そのおかげで、パソコン、体操着や運動靴などで荷物のかさ張りを軽減することができます。

私にとっては、男性のいる環境に馴染みやすいというのが一番の利点だと思います。高校生の頃は男性と話せなくて、どうやって話すのか分かりませんでした。本学は本当に女子学生が少ないので、活動のときに男子学生の中に私一人ということがよくあり、馴染む術を覚えていきました。ですから、男性社会に馴染むことができたのではないかとということと、多くの男性に関わったので見る目を養えたのではないかと思います。

最後になりますが、修学に関する本学の現状と課題ということで、先ほどから言っているように、本学はグループ活動の授業が多いので、そのグループ活動のときに、女子一人と男子多数というようなグループが多いです。ただ、女子学生にとってつらいのは、グループ活動は授業時間内に終わらないことです。みんなアルバイトをしているので、深夜に24時間空いている自習室に集まることが多く、夜道が怖いということもあります。

私的には、男女ということではなく問題だなと思うのは、私が入学した年では、同じ学科内のグループ活動が大変多いのですが、学科外の方とのコミュニケーションが取れないことや、学科内の固定観念にとらわれやすいということがありました。また、活動に積極的な方が毎回同じこともありました。これを改善するために、次のことを提案します。

教養の授業において、他分野との交流を進めていくべきではないかというのが一番に提案したいことです。それによって、とらわれていた固定観念を取っ払っていき、やはりお互いに分からないことも多いので、そういう壁も取っ払っていければと思います。

また、同じ学年間だけでも意味がないので、難しいことですが学年の壁を越えた授業を増やしていただきたいという想いもあります。他分野とのコミュニケーションをとることによって、専門外の分野にも多く挑戦している会社が多いので、そういうことに挑戦していけるエンジニアを育成していく必要があるのではないかと思います。

私からは以上となります。ご清聴ありがとうございました。